

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	吉番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 1 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節に合わせた外出でも皆で参加される方に対しては皆で、個別での外出を好まれる方に対しては個別の対応をさせていただいております。又、全番館の交流を目的に合同の行事やイベントを実施しております。ケアの根底にあるのは、入居者の方ター一人ひとりが何を望まれているのかを察しながら、それをかなえる事により見せていただける笑顔になれる時間を少しでも多く作れるよう心がけお手伝いさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄富沢駅西方の、広い静かな畑作地帯にホームがある。隣り合わせている2ユニットと中庭を挟んだ1ユニットからなるグループホームである。ホームの「笑顔が絶えない生活。家庭的な雰囲気。自分らしさを大切に。近所付き合いや自然との触れ合い」の理念をもとに、各ユニットがそれぞれ目標を作って入居者本位の立場に立った支援を実施している。同法人の仙台富沢病院が隣接している。入居者の半数が「仙台在宅支援診療所」の訪問診療を受けており、医療・介護一体の支援体制ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢 )「ユニット名 壱番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念や地域密着型サービスを踏まえたグループホームとしての目標を作成しそれを達成するにはどのようにすれば達成できるかを考え各ユニットの目標を作成しスタッフで共有し実践につなげている	ホームの「笑顔の絶えない生活」等の理念のもと、各ユニットごと「心の幸せ」等の目標を掲げ、入居者各自の思いや意向を汲み取り「幸せ」と感じられるよう、入居者に寄り添ったケアを実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入することで出来るだけ地域の方々と交流を持つようになっている。(町内会のお祭りの参加、ホームの夏まつりでの交流)	町内の秋祭り等に参加している。ホームでの夏祭りは、町内のテント等の借用や会場設営も地域住民の支援を得て、約百名の参加で盆踊りや屋台も出て盛況であった。隣接の大家さんから野菜等の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの生活の様子を記した広報誌を町内会の回覧板に回し、認知症の理解及び向上に努めている。又、地域の方からも相談を受けることも増え、その都度認知症に関しての事など説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告はもちろん、運営推進会議の参加者にホーム内を自由に見ていただきその場で良い点や改善すべき点などを出していただきその後の運営に活かしている	町内会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加し、意見交換が行なわれている。「ホームの照明が暗い」「下肢筋力の維持のためできるだけ散歩」等の意見が出され、ケアに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点やわからないことなどはその都度問い合わせるようにし対応方法等の助言をいただくようになっている	ホームで会議等開催時の交通費支払いの在り方について等、分からないことを問い合わせ相談し対応している。その他、介護保険関連の提出書類の細部について担当者に問い合わせし助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けており、研修会に参加し学んだことを全体会議等で勉強会を行い全てのスタッフにアンケートなどを取り、改めて自らのケアは間違っていないか話し合い今後どのようにすれば防止できるか考える機会を設けている	身体拘束について計画的に勉強会を実施しており、勤務等で参加できなかった職員には伝達講習でフォローしている。外に出たがる入居者には、本人が納得するまで職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けており、定期的にスタッフが集まって勉強会を行っている。何ができるようにいけないのか改めて省みることで、自分のケアは虐待に繋がらないか考える機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加しており、必要なケースに対しては制度を活用できる体制を整えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は納得して頂けるように十分な説明を行い、不明な点や疑問点等無いかお尋ねしその都度説明させていただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話をした時になにか困ったことなどないか確認させていただくようにしている。又、出てきた意見はユニット会議などに議題として出し、反映させている	職員から家族等に話し掛ける等、意見を提案しやすい雰囲気になっている。「スリッパが汚れている」「部屋の窓の棧に埃がある」等の意見に、スリッパの新調、部屋の清掃に努める等、積極的に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会での意見や、職員の意見、要望はその都度聞くようにし、改善できるものに対してはその都度改善している	ユニット会議や全体会議等の職員の発言を反映し、パート職員の勤務時間帯の要望を含む職員の勤務時間の調整を図っている。重い食器を軽い材質に変更の提案も取り上げられ実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、職員個々の状態を面談や日々の会話等から積極的に把握し、その後の職場環境や条件の向上につながるよう法人本部と相談している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加してもらうようにしている。参加ができないスタッフについては、伝達講習などを通して内容を周知させていただくようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で行われる勉強会等を通して職員と交流を持つようにしている。又、地域包括支援センターなどが主催する勉強会に参加させていただきほかの事業所等と積極的に交流を持つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、不安な点や疑問な点は遠慮なく話していただき、出来るだけ不安のない状態で入居していただくように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの役割の説明を行い、その上でご家族様の不安や疑問点などを解決できるように話しやすい環境を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の現状や、利用者の方々ご家族様の希望、要望を職員同士で共有し、把握に努め、必要なサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者野方ター一人ひとりと関わりを持ち、その方の思いを知り、その方のできることを一緒に探してお互いに高めあっているよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換をこまめに行い、面会や交流の場や機会を使ってご家族様と職員もともに関わりを持ち続けるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それまでの生活習慣を聞き取り、それに合わせ関わりを持てるように支援している。例えば美容室等それまで通っていたところに行くことができるのであればそのように支援している	馴染みの美容院等に家族又は職員が付き添って利用している。かかりつけの病院に通院し、馴染みの医師や、これまでの通院仲間との関係を大切に、そこでの交流を楽しみしている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席などは固定はせずに本人様たちのペースで関わりを持ち続けるよう心がけ、支援している。又、一人になりがちの方は職員から率先し声をかけるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が契約が終了しても、いつでも相談に乗ることを話し必要に応じて支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から希望や思いを伺っている。又、発言や表情を記録に残したり申し送りに載せることで共有している。利用者の方々がなかなか意見を表すことが難しい場合はご家族様より頂いた情報や行動、表情から推測している	言葉や動作をいろいろ観察し、表情や反応で思いや意思の確認に努めている。外に出たがらないがかつて野菜を作っていたと言う方に、室内でプランター栽培等、喜ぶものを探り当て支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの習慣や趣味などを利用者の方々や、ご家族様からお伺いし、少しでもその方のせいかつを把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の場面場面で出てきた言動、表情等をケース記録に残すことでスタッフ全員がその場になくても把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに添ってサービス提供を行い、実際に行ってみてどうだったかをケース記録に残すようにしている。又、面会時にご家族様からご意向を伺うことで情報を集め計画に移している	野菜作りに興味がある入居者には室内のプランター栽培や、家族からのテレビ体操や民謡等習い事の希望を聞いている。本人、他の入居者も参加できるようケアプランに取り入れて実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、行ったケアを記録に残している。又、口頭での報告や、聞き取りなどで情報の把握に努め会議等で情報を共有するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の希望や本人様の状態などから必要なサービスを策定し、提供できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑などに囲まれており、散歩の際に見学したり、近隣の保育園や、小学校、町内会の行事などに参加できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方々やご家族様がかかりつけ医を希望される場合は出来る限り希望に添うことが出来る様支援している	かかりつけ医は3名で他は協力医の仙台富沢病院を利用している。訪問歯科もある。仙台在宅支援診療所の往診を受けている入居者(13名)も多く、医療支援体制は整っており家族から安心感が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、些細なことでも異変に気づいた際は看護師へ報告している。又、常日頃より申し送りに看護、介護職とも出席出来るだけ日常の様子もわかるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリーなどにその方の状態を詳細に記入し定期的に様子を伺いに行くようにしている。その状態に合わせて、退院後の対応についても検討している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から看取りに関してご要望を聞き、ホームで看取りを希望される方には出来るだけ希望に添うことが出来る様支援している。又、看取りを希望されない方に対しても医療機関と連携を図るようにしている	昨年、2名の看取りを行なっている。家族の信頼が厚く、看取りを希望する家族は約半数を占め、仙台在宅支援診療所の往診を受けている。職員も医師から看取りの講習を受け、厳粛に看取りができるよう備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてマニュアルを整備している。又、そのマニュアルは実践可能かどうか見極めるために訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害ごとのマニュアルを整備している。又訓練時地域の方々にもご協力していただき参加していただくことで協力体制を築いている	年2回の災害訓練を実施しており、ホームに隣接している大家さんと地域住民2~3人の支援も得ている。消防署の立ち合いもしている。実施の状況・反省等について、次回に活かす記録はされていない。	訓練の実施後の、職員の参加者・役割や反省事項等の記録が欲しい。非常口は段差があり車イスでの避難がやや困難であるので、避難要領を確認・検討していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居している方々はもちろん年上の方々に、多くの経験をされてきている方々であるため、言葉遣いや接し方に失礼の内容に支援している	親しみを込めて「ちゃん」付けで呼ぶこともあるが、馴れ合いに留意している。失禁時に、さりげない誘導でトイレに寄る等している。着替えもできる場所は自分でしてもらおう等、尊厳に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場面、場面で声をかけ、その方の意思を確認しながら支援している。意思を表出することが難しい場合はどのように問いかければ自分の意見を出すことができるのか考えながら行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活習慣やペースに配慮しながら、一人ひとりが自分が思うように生活できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものを出来るだけ選んでいただけよう支援している。又、希望に合わせて美容室にも行っていただくように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方々が得意な場面を活かすことができるように考えながら、米とぎや調理のごしらえ、メニューの作成等行っていただくようにしている	キノコの下拵えが得意な入居者や魚をさばける入居者もいる。広告を見て「こんなのが食べたい」にはメニューに反映している。嚥下能力の低下した入居者に、きざみ食に変更して食べて頂けるよう努力している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の方々一人ひとりに合わせた調理方法や食事形態にして提供している。水分摂取量が少ない方に関しては少しずつでも飲んでいただけるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の方々に合わせ、自分でできる方、声かけが必要な方、動作全体に介助が必要な方等とわけその方に合わせた方法で口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表から確認し、パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。下剤の内服をされた方に関しては通常の誘導以外にも様子を伺いつつ必要に応じて声がけをさせていただいている	便座に座れない入居者や立つのも難しい入居者はやむを得ずオムツを使用している。排泄パターンを活用したり、ソワソワした素振りがトイレのサインと受け止める等、トイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては、牛乳を提供したり、トイレの際に腹部マッサージを行ってみたり、体を動かす機会を提供させていただくことで排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それまでの生活習慣や希望に合わせて入浴の声がけを行っている。気持ちよく入浴していただけるように湯船の温度や、脱衣所の室温等設定している	好みの入浴剤を使用しており、2人掛かりで入浴支援している方もいる。入浴したくない入居者には「塗り薬は体を洗った方が効き目がいいよ」「湯加減見て下さい。ついでに入りましょう」等、誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方々の状態や体調に合わせて居室にて休んでいただいている。疲労が見られるときは居室にて1時間ほど休んでいただき、夜間帯に響かないようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の際は、確認し内服の間違いが無いように努めている。処方の変更改があれば申し送り簿に記入し、職員全員が把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々がやりたいことを行っていたり、好きなよう好み把握し、好みに応じた楽しみごとや気分転換に繋がるような事を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物へとお誘いしたり外気浴にもお誘いしている。職員だけでは対応が難しい場合でもご家族様に協力を仰ぎながら出来るだけ利用者の方々が希望されるようお出かけしていただいている	年間行事として、同じ法人のデイサービスの車を借りて花見、紅葉等を計画しており、その他「誕生外出」等を実施している。ホームの夏祭りには入居者が、浴衣や口紅でおしゃれをし、特別の日と認識する機会を大切にしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し管理できる方にはご本人様にも管理していただいている。お金を預かっている方に対しても買い物などの際に財布を持っていただくなど支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の希望がある場合は、電話の使用、取次ぎ等支援している。耳が遠い方に関してはスタッフが代行したり、お手紙を書くといった支援をさせていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感がわかるように飾りつけをしている。又、玄関先には植物をおき外気浴などの際には楽しんでいただいている	入居者の書いた習字や生け花の先生だった入居者が生けた花を飾っている。小上がりの畳の部屋があり和風の落ち着きがある。イベントや生活の様子、個人の写真を家族宛に持ち帰れるように備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルから少し離れたところにソファを設置しテレビをみたり、休んだり思い思いに過ごせるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを置いていただいたりレクなどで作成した習字や、ぬりえ、写真などを飾り居心地の良い空間を提供している	ベッドとタンスは備え付けである。鏡台等馴染みの家具や位牌を持ってきている入居者もいる。足腰の弱い入居者が、トイレ等へ真っすぐ行けるようにベッドの配置を替える等の配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力を見極め、安全に配慮しながら環境整備を行い、できること、今まで行ってきたであろうことを続けることができる様支援している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	弐番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成26年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では豊かな地域資源が活用できるように支援しております。外出の際は近隣の畑や公園をめぐり、買い物へも車椅子の利用しやすい商業施設が多くあるため、歩行に際して不安のある方にも外出の機会を提供できるようにしえんしております。また、地域の行事にも積極的に参加しており、お祭りや保育園の行事を通して地域の方々・子供たちとの関わりを持っていただきつつ、ホームでは招待できる行事をおこない社会とのつながりを保てるように支援しております

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄富沢駅西方の、広い静かな畑作地帯にホームがある。隣り合わせている2ユニットと中庭を挟んだ1ユニットからなるグループホームである。ホームの「笑顔が絶えない生活。家庭的な雰囲気。自分らしさを大切に。近所付き合いや自然との触れ合い」の理念をもとに、各ユニットがそれぞれ目標を作って入居者本位の立場に立った支援を実施している。同法人の仙台富沢病院が隣接している。入居者の半数が「仙台在宅支援診療所」の訪問診療を受けており、医療・介護一体の支援体制ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢 )「ユニット名 貳番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念、地域密着サービスの意義に沿って年度ごとにホーム全体・ユニットでの目標を立てて達成できるように取り組んでいる	ホームの「笑顔の絶えない生活」等の理念のもと、各ユニットごと「心の幸せ」等の目標を掲げ、入居者各自の思いや意向を汲み取り「幸せ」と感じられるよう、入居者に寄り添ったケアを実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へと参加しており地域での行事や廃品回収に参加することで地域とのつながりを持てるようにしている	町内の秋祭り等に参加している。ホームでの夏祭りは、町内のテント等の借用や会場設営も地域住民の支援を得て、約百名の参加で盆踊りや屋台も出て盛況であった。隣接の大家さんから野菜等の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を招待する行事を行い、ホームのことを知っていただくと共に、どのように過ごされているかを知っていただく機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告を行うと共に、ホームでの改善点など伺えるようにしている。地域への貢献に関してもご意見がもらえるようにしている	町内会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加し、意見交換が行なわれている。「ホームの照明が暗い」「下肢筋力の維持のためできるだけ散歩」等の意見が出され、ケアに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点やわからないことに関してその都度問い合わせ、対応方法など助言をいただけるようにしている	ホームで会議等開催時の交通費支払いの在り方について等、分からないことを問い合わせ相談し対応している。その他、介護保険関連の提出書類の細部について担当者に問い合わせし助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設けており、委員会を中心として勉強会やアンケートを行うことで拘束への理解の深度化、認識の現状の把握に努め、防止へとつなげている	身体拘束について計画的に勉強会を実施しており、勤務等で参加できなかった職員には伝達講習でフォローしている。外に出たがる入居者には、本人が納得するまで職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け、勉強会や資料の作成を行い、どのような事が虐待にあたるか、その弊害はどのようなものかをスタッフ全体で学べるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加し必要に応じて制度を利用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明において、十分にご理解が得られるように対応している。また、疑問に思われたことはその都度説明させていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でお話を伺える際は、要望などを聴取し会議などで取り上げられるようにしている	職員から家族等に話し掛ける等、意見を提案しやすい雰囲気になっている。「スリッパが汚れている」「部屋の窓の棧に埃がある」等の意見に、スリッパの新調、部屋の清掃に努める等、積極的に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などにおいて聞かれた職員の意見や要望は必要に応じて、法人の本部へと報告している	ユニット会議や全体会議等の職員の発言を反映し、パート職員の勤務時間帯の要望を含む職員の勤務時間の調整を図っている。重い食器を軽い材質に変更の提案も取り上げられ実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目標や状態を把握し、その後の職場環境や条件の向上につながるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保を行うと共に、本人の研修参加への希望にもこたえられるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での別事業所の職員と交流を持つと共に、研修時に他事業所とも情報の交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期においてのご本人様の不安に思われていること、ご家族様にも本人様が常々不安にされていることを聴取し、解消できるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入するにあたってご家族の方の不安や要望を遠慮なく言っていただけるようにしている。また、質問の多い事柄に関してはこちらから説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様から積極的に情報を聴取し、現状の把握に努め、必要なサービスを提供していけるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の情報の収集を行い、日常の関わりからニーズを探ることで、その方のされてきた事・習慣を施設内でも継続できるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族様から情報・要望を聴取し、ケアプランへの反映をしている。また、自宅への外出の際は介助方法などを伝えられるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様・ご家族様からなじみの場所をうかがい、外出できる機会を提供をしている	馴染みの美容院等に家族又は職員が付き添って利用している。かかりつけの病院に通院し、馴染みの医師や、これまでの通院仲間との関係を大切に、そこでの交流を楽しみにしている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や趣味などに配慮し、スタッフも間に入ることで交流を図っている。ホーム全体での行事も定期的に行うことで、ユニットだけではない交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談にのれることを伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	積極的に関わりを持つことでその方のニーズを探り、得られた情報を共有できるように記録し申し送りしている	言葉や動作をいろいろ観察し、表情や反応で思いや意思の確認に努めている。外に出たがらないがかつて野菜を作っていたと言う方に、室内でプランター栽培等、喜ぶものを探り当て支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様から情報を聴取し、習慣を続けていただけるように支援し、馴染みの場所があればいけるように機会の提供を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の発言・行動をケース記録へと記入し、会議の際に個別の検討を行うことで把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な関わりの中から得られたその方の意向に対して、カンファレンスにてどのようにすれば達成できるかを話し合っている	野菜作りに興味がある入居者には室内のプランター栽培や、家族からのテレビ体操や民謡等習い事の希望を聞いている。本人、他の入居者も参加できるようケアプランに取り入れて実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へとケアプランへの反応・発言を記入し見直しへと活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居以前に利用されていたサービスがあり、継続の希望があれば、ホームの枠にとらわれず利用していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物などへとお誘いし、その際近隣の公園や商業施設を利用している。また、行事外出においては車椅子使用可のレジャー施設を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様の希望されるかかりつけ医を継続して利用していただいている。特に希望がなければ協力医療機関を利用して頂いている	かかりつけ医は3名で他は協力医の仙台富沢病院を利用している。訪問歯科もある。仙台在宅支援診療所の往診を受けている入居者(13名)も多く、医療支援体制は整っており家族から安心感が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り・全体会議に看護師も参加しており、状態の把握をしていただいている。また、対応や処置についてその都度相談できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーへとその方の状態を詳細に記入し、ムンテラの際は可能であればスタッフも同席させていただき、退院後の対応へと活かせるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・ご家族様に終末期の対応について確認を行い、ホームでの看取りを希望される場合は添えるように支援している。看取りに関しての勉強会を行い、対応について学べるようにしている	昨年、2名の看取りを行なっている。家族の信頼が厚く、看取りを希望する家族は約半数を占め、仙台在宅支援診療所の往診を受けている。職員も医師から看取りの講習を受け、厳粛に看取りができるよう備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の対応のマニュアルを作成しており、特変の予想される方に関してはその際の対応について医療機関・看護師へとその都度相談している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間・地震など様々なシチュエーションのマニュアルを作成し、それに沿った訓練を行っている	年2回の災害訓練を実施しており、ホームに隣接している大家さんと地域住民2～3人の支援も得ている。消防署の立ち合いもしている。実施の状況・反省等について、次回に活かす記録はされていない。	訓練の実施後の、職員の参加者・役割や反省事項等の記録が欲しい。非常口は段差があり車イスでの避難がやや困難であるので、避難要領を確認・検討していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の介助に関して、その方のADLを見極め過剰な介入・介助とならないように対応している	親しみを込めて「ちゃん」付けで呼ぶこともあるが、馴れ合いに留意している。失禁時に、さりげない誘導でトイレに寄る等している。着替えもできる場所は自分でしてもらおう等、尊厳に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な関わりの中でその方が思いや希望を表された際は記録に残し、添えるように対応の統一を図っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、過ごされる場所などはその方の希望・ペースに添えるように柔軟な対応をとるため、スタッフ間で連携をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助のしやすさを優先せず、その方の希望を反映できるようにしている。また、行事やハレの日にはお化粧をさせていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや食形態の工夫を図ると共に、見た目にも気を配り、季節のものを取り入れるなど工夫している。また家庭菜園の野菜も収穫していただいている	キノコの下拵えが得意な入居者や魚をさばける入居者もいる。広告を見て「こんなのが食べたい」にはメニューに反映している。嚥下能力の低下した入居者に、きざみ食に変更して食べて頂けるよう努力している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェック表へと記入し、申し送りも行い把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声掛けを行い必要であれば一部介助している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表へと記入しパターンの把握に努めると共に誘導の必要な方に関してはその方の尊厳に配慮した声掛けを心がけている	便座に座れない入居者や立つのも難しい入居者はやむを得ずオムツを使用している。排泄パターンを活用したり、ソワソワした素振りがトイレのサインと受け止める等、トイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や体を動かしていただくなどして便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の希望や習慣にあわせて声掛けを行っている。また、介助方法の工夫・検討を行い入浴するという行為を可能である限り継続していただけるように支援している	好みの入浴剤を使用しており、2人掛かりで入浴支援している方もいる。入浴したくない入居者には「塗り薬は体を洗った方が効き目がいいよ」「湯加減見て下さい。ついでに入りましょう」等、誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中においても疲労のみられる際は休息をすすめている。夜間浅眠な方に関しては、日中の対応・過ごされ方を工夫しよく休んでいただけるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬情をはさみいつでも目を通せるようにしている。処方・処置の変更のあった際は変更の理由も含め申し送りしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様・ご家族様からその方の生活歴や習慣を聴取し、ホームでの生活においても続けていただけるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出の機会を持てるように支援している。日常の会話において希望が聞かれたさいは行事などを通して実現できるようにしている	年間行事として、同じ法人のデイサービスの車を借りて花見、紅葉等を計画しており、その他「誕生外出」等を実施している。ホームの夏祭りには入居者が、浴衣や口紅でおしゃれをし、特別の日と認識する機会を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出において、ご自分の財布があることで安心され楽しめる方もおり、ご家族の協力のもと、ご自分で管理できるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎ・代行を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてホールの模様替えを行い、その時期にあった花を利用者の方に飾っていただいている	入居者の書いた習字や生け花の先生だった入居者が生けた花を飾っている。小上がりの畳の部屋があり和風の落ち着きがある。イベントや生活の様子、個人の写真を家族宛に持ち帰れるように備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや行事にあわせて座席の位置を考え配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にも協力していただき、その方の使い慣れたものを居室にて使っていただいている。また、レクや行事にて作成した作品を飾っていただいている	ベッドとタンスは備え付けである。鏡台等馴染みの家具や位牌を持ってきている入居者もいる。足腰の弱い入居者が、トイレ等へ真っすぐ行けるようにベッドの配置を替える等の配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置し、サイドボードにはどこに何があるかわかるように表示している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	参番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 1 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が、毎日笑顔で生活できるよう、どんなことが好きなのか、楽しみにしているのかスタッフ同士で話し合い、考え、お手伝いしています。  
誕生日や季節の行事に合わせての外出の他にも外へ出る機会を作り外食や、買い物のお誘いをしたり、その方に合わせた出来る家事活動や趣味活動を一緒におこなっていただく事で生活にハリが出て入居者の方々も役割をもって生活していただけるよう心掛けております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄富沢駅西方の、広い静かな畑作地帯にホームがある。隣り合わせている2ユニットと中庭を挟んだ1ユニットからなるグループホームである。ホームの「笑顔が絶えない生活。家庭的な雰囲気。自分らしさを大切に。近所付き合いや自然との触れ合い」の理念をもとに、各ユニットがそれぞれ目標を作って入居者本位の立場に立った支援を実施している。同法人の仙台富沢病院が隣接している。入居者の半数が「仙台在宅支援診療所」の訪問診療を受けており、医療・介護一体の支援体制ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢 )「ユニット名 参番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やすらぎホーム富沢の理念を作成しており、管理者や各スタッフが実践できるよう話し合いを行い、理念を実行している	ホームの「笑顔の絶えない生活」等の理念のもと、各ユニットごと「心の幸せ」等の目標を掲げ、入居者各自の思いや意向を汲み取り「幸せ」と感じられるよう、入居者に寄り添ったケアを実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、行事の際参加していただいたりご協力を頂いている。	町内の秋祭り等に参加している。ホームでの夏祭りは、町内のテント等の借用や会場設営も地域住民の支援を得て、約百名の参加で盆踊りや屋台も出て盛況であった。隣接の大家さんから野菜等の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフが広報紙を作成しており、グループホームはどのようなところなのか記載し回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っており、その場で出た意見などを職員と話しあい今後に活かせるようにしている	町内会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加し、意見交換が行なわれている。「ホームの照明が暗い」「下肢筋力の維持のためできるだけ散歩」等の意見が出され、ケアに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点はその都度問い合わせさせていただき、対応方法などの助言していただいている。	ホームで会議等開催時の交通費支払いの在り方について等、分からないことを問い合わせ相談し対応している。その他、介護保険関連の提出書類の細部について担当者に問い合わせし助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修会に参加し、参加した職員より伝達講習を行っている。日々のケアを見直し自分たちのケアが身体拘束に結びついていないか検証している	身体拘束について計画的に勉強会を実施しており、勤務等で参加できなかった職員には伝達講習でフォローしている。外に出たがる入居者には、本人が納得するまで職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に虐待に関しても自分のケアが虐待にあたっていないか日々のケアを見直している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修や勉強会などを通して制度の理解に努め、必要時に活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い、疑問の点などはいつでもお伺いし納得して頂けるよう随時説明させていただきようになっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお電話した際にお困りの事や、要望等が無い確認し、出されたご意見などは会議の場で議題として上げている	職員から家族等に話し掛ける等、意見を提案しやすい雰囲気になっている。「スリッパが汚れている」「部屋の窓の棧に埃がある」等の意見に、スリッパの新調、部屋の清掃に努める等、積極的に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会での意見や、職員の意見、要望はその都度聞くようにし、改善できるものに対してはその都度改善している	ユニット会議や全体会議等の職員の発言を反映し、パート職員の勤務時間帯の要望を含む職員の勤務時間の調整を図っている。重い食器を軽い材質に変更の提案も取り上げられ実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、職員個々の状態を面談や日々の会話等から積極的に把握し、その後の職場環境や条件の向上につながるよう法人本部と相談している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加してもらうようになっている。参加ができないスタッフについては、伝達講習などを通して内容を周知していただくようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で行われる勉強会等を通して職員と交流を持つようになっている。又、地域包括支援センターなどが主催する勉強会に参加させていただきほかの事業所等と積極的に交流を持つようになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りはもちろん必要だが、コミュニケーションを通し、利用者の方が言葉にならないようなことでも感じ取れるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前はもちろん、入居してからもご家族様が不安なことや、要望等常に話しやすい関係作りに努め、家族様からお話いただけないような時はこちらから話しかけご家族様の声に耳を傾けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前の生活習慣をお聞きしながら、その時必要と思われる支援を提供している。できるだけ混乱に繋がらないよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることや、してみたいことなどを聞き取ったり、振ってみることで反応を確かめ、表情よく行っていたことに関しては継続して行っていたりするようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前はもちろん、入居後もご本人様の得意なことなどを聞き取りながら日々のケアに反映しできていることをご家族様とともに喜べるように報告するようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が受診や美容室等にできるだけ継続して行っていただけるように支援していく。	馴染みの美容院等に家族又は職員が付き添って利用している。かかりつけの病院に通院し、馴染みの医師や、これまでの通院仲間との関係を大切に、そこでの交流を楽しみにしている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ孤立しないように気をつけ、お声がけし輪に入ってもらいたい。また、一人を好まれる方でもずっとひとりではなくメリハリをつけて一人でおられる時とそうでない時を分けてたいおうしていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたあとも、相談に乗りながら必要に応じて必要なサービスを提供している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いは状況により変化しているため、その都度アセスメントを通して聴取し、できない場合は日頃の様子から本人様の意向を感じ取っていただくようにしている	言葉や動作をいろいろ観察し、表情や反応で思いや意思の確認に努めている。外に出たがらないがかつて野菜を作っていたと言う方に、室内でプランター栽培等、喜ぶものを探り当て支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけ、それまでの暮らしを継続して頂けるよう入居前に聴取し実現できるよう、ご家族様にもご協力頂きながら把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を細かく残すようにしながら、一人ひとり変化等にすぐ気付けるように必ず目を通すようにしている。又、ユニット介護など気になった方の状態を話し情報の共有に努める		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の方々が、どのように生活してどのように暮らしたいか本人様を始め、ご家族様職員が皆で話しあいその時の状況にあった介護計画を作成するようにしている	野菜作りに興味がある入居者には室内のプランター栽培や、家族からのテレビ体操や民謡等習い事の希望を聞いている。本人、他の入居者も参加できるようケアプランに取り入れて実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアについて気づきや工夫していることをケース記録に記入し、誰が見てもわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりが必要な介護、必要な支援を受けられることができるように事業所の枠にとらわれないことと必要に応じてサービスを提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や外食の機会を作り近隣の施設を利用している。又、運営推進会議などで情報をいただき地域の行事にも参加させていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人様やご家族様の行きたい病院をあらかじめ聴取しできるだけご家族様のご希望に沿うことが出来る様支援している	かかりつけ医は3名で他は協力医の仙台富沢病院を利用している。訪問歯科もある。仙台在宅支援診療所の往診を受けている入居者(13名)も多く、医療支援体制は整っており家族から安心感が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理はもちろん、日常生活の中で様子がおかしいときや、疑問に思ったことなどを職場内の看護師に伝え支持をもらうようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の対応に活かせるように、入院先の医師や看護師、相談員との情報交換を行っている。又、必要に応じて相談に乗っていただけよう関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から、終末期のあり方についてお話し、状況や考え方が変わればその都度変更可能であることもお話す。又、そのときを迎えるにあたり医師や看護師、介護員等必要に応じて勉強会を行いその方のケアに当たるようにしている	昨年、2名の看取りを行なっている。家族の信頼が厚く、看取りを希望する家族は約半数を占め、仙台在宅支援診療所の往診を受けている。職員も医師から看取りの講習を受け、厳粛に看取りができるよう備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各種マニュアルを作成し必要に応じて、訓練を行い身につくようにしている。又、ひとりひとりに対し起こりうることを書き出しカルテの表紙にしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災の対応マニュアルを作成し、訓練を行っている。地域の方にも協力いただき、訓練に参加していただいている	年2回の災害訓練を実施しており、ホームに隣接している大家さんと地域住民2~3人の支援も得ている。消防署の立ち合いもしている。実施の状況・反省等について、次回に活かす記録はされていない。	訓練の実施後の、職員の参加者・役割や反省事項等の記録が欲しい。非常口は段差があり車イスでの避難がやや困難であるので、避難要領を確認・検討していただきたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活スタイルや性格を理解し、対応している。一人ひとりにあった対応や声かけを心掛けるようにし、尊重している	親しみを込めて「ちゃん」付けで呼ぶこともあるが、馴れ合いに留意している。失禁時に、さりげない誘導でトイレに寄る等している。着替えもできる場所は自分でしてもらおう等、尊厳に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	他者との会話中に耳を傾けたり、本人との会話中にさりげなく本人の思いなどに耳を傾けるようにしている。又、その希望に添えるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中でなるべくご自分の好きなことを行っていたりできるよう支援している。自分で意見や要望を言えない方はこちらから確認したりしながら出来ることを行っていたりよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みを各職員知っておりできるだけその好みにあったおしゃれが出来る様支援している。ご自分で衣類を選ぶことが可能な方は季節感は大変なためその都度助言している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最初から最後まで難しいが、一人ひとりのことを行っていたりよう支援している。行い終わったら少し大きなくらいお礼を言うことで次につながるようになっている	キノコの下拵えが得意な入居者や魚をさばける入居者もいる。広告を見て「こんなのが食べたい」にはメニューに反映している。嚥下能力の低下した入居者に、きざみ食に変更して食べて頂けるよう努力している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分はチェック表に記入し、いつもの状況が違うような時はできるだけ記録に残すようにしている。食事や水分が進まない時は声がけの方法や、対応を工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の口腔ケアは必ず行うように必要な方は声がけを行っている。又、食後残渣物が多い方は毎食後口腔ケアを行っていたりよう声がけが必要に応じて介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力をアセスメントしできる方には自力にて行っていただけるよう声がけし、難しい方には排泄チェック表からみて必要な時間に誘導するようにしている	便座に座れない入居者や立つのも難しい入居者はやむを得ずオムツを使用している。排泄パターンを活用したり、ソワソワした素振りがトイレのサインと受け止める等、トイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	冷たい牛乳やヨーグルト、朝一番のお水などその方に合わせて提供できるだけ自然排便が出来る様お世話している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認し、なるべく希望にそのようなタイミングで入浴していただいている。入浴時間は一応13:00から21:00となっているが、それ以外の時間でも希望時対応するようにしている	好みの入浴剤を使用しており、2人掛かりで入浴支援している方もいる。入浴したがい入居者には「塗り薬は体を洗った方が効き目がいいよ」「湯加減見て下さい。ついでに入りましょう」等、誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んでいただけるよう環境をととのえている。昼間休まれるときは時間をみて休みっぱなしにはならないよう心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服前に薬のチェックをその日勤務のスタッフで行いミスの無いよう確認合っている。内服されても状態に合わせて、必要な方には飲み込んだのまで確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、日々の状態を観察しそれぞれやりたいことや得意なことを行うことができる様支援している。そのために、入居後もご家族様に入居者の方々がとづけてきたことなど聞き取るようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人がやりたいことや、行きたいことはできるだけ希望に沿えるよう支援している。買い物や散歩などに出かけることで地域の方々と顔なじみにもなり良い関係も築けている	年間行事として、同じ法人のデイサービスの車を借りて花見、紅葉等を計画しており、その他「誕生外出」等を実施している。ホームの夏祭りには入居者が、浴衣や口紅でおしゃれをし、特別の日と認識する機会を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理されている方に関しては、お小遣い程度の金額を管理されている。それ以外の方々に関してはお金はこちらで保管し買い物の際にお支払いしていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分から電話をかけることを希望されるときは、能力に応じて電話の支援を行っている。手紙を自ら送ると話される方はいないが、ご家族様からものを送られお礼をしたらとお話するとお礼を書かれたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るように装飾を行っている。居間や食堂などの共有空間は、入居者様が心地よいと思えすような空間を作っている	入居者の書いた習字や生け花の先生だった入居者が生けた花を飾っている。小上がりの畳の部屋があり和風の落ち着いた雰囲気がある。イベントや生活の様子、個人の写真を家族宛に持ち帰れるように備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いの場所で過ごして頂けるように、椅子やソファ、テーブルの位置を設定している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真を飾ったり、使い慣れた家具を持ち込んでいただいたりしている。又、入居者の方々のADL状況にも合わせて使いやすいベッドの位置を調整するようにしている	ベッドとタンスは備え付けである。鏡台等馴染みの家具や位牌を持ってきている入居者もいる。足腰の弱い入居者が、トイレ等へ真っすぐ行けるようにベッドの配置を替える等の配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方々のADL状況に合わせて、環境を整えている。又、一人ひとりが自分で使えるよう引き出しに張り出すようにしている		